



ワンポイント One Point Flake Paint



今回の主役はコレ!  
シルバークロム  
ガンメタフレック  
こちらはハロースオパカラのミニシルバークロム。キラキラとした景色が良く、キャンディとの相性がよく、後半の2ネタで使用。

フレック×リーフ

久々登場! ペイント界の化学博士のぶじろう先生 & のぶ子CD  
取材協力! タケウチオート  
新技術や新素材系ペイントを駆使する業界のアイデアマンといえはタケウチオート代表、のぶじろう先生。今回はグレードUPしたCD(弟子の巻)のぶじを捉えて登場だ。  
住所: 神奈川県小田原市草川 3-11-6  
TEL: 0465-22-4021  
http://www.takeuchiauto.com/

スタイリッシュペイント #6  
コーディネート  
実践テク!

スモークテール×フレック

クーデ技でゴージャスに!

ペイント技ってどうしてもフルベイントが前提になる場合が多く、その分敷居が高くなっちゃって印象があるよね? そんな中、ワンポイントでちょこちょこ出来るアイデア技があつたことしたらもったいない。ペイントカスタムを楽しむのんびりな感じが、そんな思いで今回もタケウチオートののぶじろう先生ががんばりました! 今回はサランと入れられるフレック技を提案してくれました! しかもワンポイントで数万円で済んじゃうネタばかり。低予算でゴージャスに出来るんだからやらない手はないよね。早速いってみよう!

1 フレック×リーフ コーデ

リーフメイクに更に輝きを与える

さて、最初の技はこちら。リーフメイクは今や定番といえるカスタムだよね。そこに更なるアピール度が増すテクニックを追加してみよう! ということでリーフの線をガンメタフレックで線取っちゃおうという訳。通常は線を押さえるためにピンストライプで線取ることが多いんだけど、そこをフレックラインに変えるのだ。リーフって元々ゴージャスな印象になるけど、更にキラキラ感増でアピール力が増すこと間違いなしだ!

リーフの緑をフレックでかざる!

ギラツクフレックがばっちり入る。応用技で上のようなフレック単独でのデザインラインも入れることが出来る。この部分は別価格になっている。今回のボンネット全体で3万円。  
リーフの7本にフレックのラインを入れる  
リーフの線をフレックで線取らせるのだ。  
ゴージャスなリーフ

今回のボンネット全体にデザインされたリーフ部分+ガンメタフレックライン込みでお値段5万円なり。リーフも込みだとかなりお得だね。

チヨ一過激!! Sexy袋とし企画リターンズ! 特別付録 Sweet Body Customz  
[シェイラグ] CAR MAG. http://www.j-lug.com  
毎月26日発売!!  
10月26日発売!!  
¥840  
【Mr-GSのちょいワサDIY】ルーフにモニター埋め込み  
【HOOD★RIDEZ】HOOD★RIDEZ キャラバン inカルバン富山本店  
Dr.トロ 北の大地を行く!  
**北海道 BANG!!**  
●ノースラック カスタム最前線!  
●夏の北海道イベント2連発!  
●トロの北の大地レボ  
カバーカーストーリー [THEキング] OLD SKOOL EVOLUTION INFINITI FX35 × 川菜美鈴  
真夏のアツい祭典 **X-5 TOKYO** 速報  
カスタムスタイル別 コーデ図鑑  
ローライダー/ユーロ/サクス/MT/トラック  
新新ハイレベル実技 by アルティス  
蓄光塗料でゴーストペイント?  
ショーアップ新パール系塗料に注目  
ワンポイントフレック技 by 竹内オート  
and More!



04 さて今度は逆にメインとなるフレーク部分のテンプレートを貼り、シルバーフレークを乗せていく。



01 ブラックベースで塗ったミラーカバーを足付けし、その上には影部分になるテンプレートを貼付ける。



05 あまり厚すぎないのがコツ。これくらいの質感がゴースト風味を表現するのはちょうどいいのだ。



02 上からシルバーでフワッとした質感を心がけて塗料を吹き付けていく。このフワッと感が後で効いてくるのだ。



06 さて、これでシャド一部分も含めフレークデザイン部分は完了。ここからキャンディブラックを薄く塗っていくと...



03 マスキングを剥がすと、パッチリのシャドウ具合が表現できているのがわかるよね。

ココにキャンディブラックを重ねると...



# ゴースト×フレーク

## フレークデザインをキャンディ封入!

ピンスト風のデザインテンプレートを使ったワンポイントフレーク。P30でも紹介しているタケウチオート制作のS2000にも施工してあるが、それをよりさりげなく見せられる「ゴーストフレーク」技なんのがあるのだ。キャンディを上から重ねることで奥行きを持たせ、しかもしっかりシャドウも入れつつフレークのキラキラ感も健在。価格は今回のミラーカバー左右で3万円だ。

キャンディブラックで封入してゴースト風味を演出

フレークで柄を作る

構造的にはフレークを入れてキャンディを上からかぶせるだけのシンプルなテクニックながら、タケウチならではの繊細なアイデアもあって、かなりばっちりなゴースト具合が表現できるのだ。

# さりげないゴージャスさが



灯火しないフチ部分に施工するのがミソ



05 全体の養生を外して、レンズ部分にも足付けておく。

# スモーク×フレーク

## 灯火類のブラックアウトにフレークなスパイスを

さて最後は、更にさりげない技、スモークテール×フレークを紹介しよう。灯火類のスモーク化、ブラックアウトが今や定番中の定番。サクッとできるリーズナブルカスタムだね。でもここにヒト手間加えれば、さり気なく個性溢れるテールの完成って訳だ。価格はテールのサイズや形状にもよるけど、今回のエクストレイルのタイプ左右で4万円。普通のスモークテール施工にちょっと足せばいい程度のお値打ちカスタムだ。



03 軽く足付けをした後、シルバーフレークをフチ部分に乗せていく。



01 今度はエクストレイルの縦型テールランプを使用。この光らないレンズのフチ部分にフレークを入れるいきます。



今回の大事なポイントはレンズ部分ではなく、灯火しないフチ部分のみに入れるのがミソ。つまり黒間にキラキラさせるのを狙う個性派タク。ちなみにテールが光ってもフレークは光りませんので。



06 全体にクリアで薄めたキャンディブラックを吹き付けていく。これを乾燥させてもうひとつクリアを塗り、磨いて完了だ。



04 フレークが重ならず、均等に乗る程度が丁度いい加減。この敷き詰められた感じが大事なのだ。



02 そのフチ部分のみ残してすべてマスキング&養生する。まずはフレークを入れていくのだ。

ココからクリアにみかきを入れると...



12 マスキングを剥がす時はもちろん慎重に、リーフが剥がれないように。



08 さて今度はリーフ部分の施工。次は逆にフレーク部分をマスキングで隠し、リーフを貼付ける面を露出させる。



04 マスキングが完了したらガンメタフレークに若干の同系色の塗料を混ぜて色味を強めてから吹き付けていく。



13 ハイ、これでリーフの貼り込みは終了。ここからは仕上げ行程に入っていきます。



09 貼付ける面に接着剤を吹き付けていく。しばらく待って粘着性が上がってから貼付けていくのがコツなのだ。



05 かなりしっかりと厚塗りをするのがキモ。よくみるとマスキングの細かいラインがわかるかな?



01 施工ベースとなるのはプロナード。なんとベンコラタイプをオーナーが探しまくって見つけてきた希少車だ。



14 リーフ部分にスピニング処理をのぶこGDが入れていく。これも力加減にコツがあるのだ。



10 ゴールドリーフを手早く貼付けていく。この作業は手早く、正確に、が大事。



06 一通り乾燥させたらマスキングを剥がしていこう。一種に剥がれないように、細かいところは細心の注意を払って。



02 まずはリーフのデザインテンプレートとなる型紙を作り、ボンネットに置いてバランスをみて、最終的なポジションを決める。



15 スピニングも入れ終わって、後はクリアを全体的に入れてから磨き作業などの仕上げのみだ。



11 これでほぼゴールドリーフが貼り込み終わりました。ここからマスキングを剥がしていくとリーフが顔をのぞかせます。



07 フレークラインの施工が完了したら、フレークラインを軽くサンドペーパーで馴染ませておく。



03 この型紙もマスキングの部分にリーフが入るので、その際部分にフレークラインの入る数ミリを残して更に外側をマスキングしていく。

フレークの鈍い輝きとリーフの明るい発色のコラボ! さてこれで完成! ホワイトボディにゴールドのリーフにガンメタのフレーク、というカラーコードもさることながら、2種類の違った質感のキラキラをコンビネーションしたこのリーフ×フレークコーデ。シンプルだけど人と差を付けたいな、って人にはうってつけの技なのだ!

## ココがポイント! マスキングの手間を惜しむな!

この作業で大事なことは施工する順番でマスキングする箇所が違っていき、さっさと施工してフレークラインを次の作業ではマスキングで隠す。しっかり隠して養生する。その作業の繰り返しでクオリティを生むのだ。上のフレークライン部分をリーフを貼る段階では今度マスキングで隠していく。手前が指さるがこの技には必要なひと手間なのだ。

# 完成!





ホイールはドルチェ・DC34の20インチをブラック×レッドでペイント



[ホンダ・S2000] **HONDA S2000**

製作: タケウチオート (神奈川県小田原市) ☎: 0465-22-4621

●ベース車: ホンダ・S2000 ●エキステリア: カスタムボンネット、ガルフィンク ●ホイール: ドルチェ DC34 (20インチ×7.5J) ●F&R ●インテリジェントフルタイム4WD

斬新系アイデアペイントの数々を生み出し、本誌でも度々ご登場願っているのぶじろう先生(今月もP49から掲載があります)率いるタケウチオートの新作となる車両がこちらのS2000。  
見るからに鮮やかな配色がまず目に飛び込んでくるが、ベースとなるカラーはソリッドブラック。その



上にキンプリブレイクを投入し、さらにそこからお得意の様々なテクニクを入れてつづきキャンディカラーでパターンを構築しているのだが、特筆すべきはその細かく投入される斬新技。オールドスクールの様なパターンの中に各種のアイデアネタをたんまり投入することで新しい息吹を演出することに成功しているってわけ。そのアイデア満載のオリジナル技は下でしっかりと解説すると、それらが合わさった時の、全体のブラック×レッドのイメージ、そこに差し色のピンクが効いた仕上がりは個性派ペインターらしい独特のイメージを与えてくれるのだ。

# ソリッドブラックベースでのアイデアLOWペイントが斬新!



## ブレんな「黒」の上で縦横無尽に駆けまわる「技」

のぶじろう先生曰く、「ベースがキャンディレックなくとも、パターンラインは出来るんだよ、というのを見たかった」という理由があつてのソリッドブラック+フレックのベース。そしてパターンの基本色となるレッドはキャンディを使っているが、フレックの差し技などは更にその上から施工したもの。この差し

**PAINT DATA** ●ベースカラー=ソリッドブラック+フレック/キャンディレッドパターンペイント(ウォータースポット、ラップ、スラッシュペイント、ゴーストピント) / リーフライン(シルバー、レッド、ピンク) / フレックピント処理



ホンネットダクトを造るが型でパターンを入れ難い。リーフラインで全体のデザインを引き締めるフソフトパターン



ピントライン代わりに入れられるのは、P49からも紹介しているフレックピントの一種。これがかかり効いているのだ。

## ダッシュボードも塗り?



ダッシュボードにも同イメージでのペイントを施工。これは純正ダッシュに床すソフトフィール処理をし、その上から通常の塗料でペイントすればのように外観と変わらない仕上がりが可能なのだ。



これぞローライターのパターンとの真逆で目えるサイドライン。壁にも通るパターンはレッドとピンクで統一



この点線のような特徴的なラインは、スラッシュペイントと呼ばれるもの。マスキングを駆使してペイントするのだ。



ドアパネル部分はモケットペイントでのピントラインを投入。独特の仕上がりはオンリーワンだ。



リヤはオリジナルなテクニクが満載の必要ペイント。スポーツカラーらしい独自のオリジナルラインも斬新



ラップペイントにウォータースポット。特にウォータースポットは水滴が大きい竹内オリジナルスタイル。



シートを始め内装は全て張り替え。ブラックレザーに差し色でレッドを使うことで外装とのコーディネートも完璧だ。